

部長	理事	課長	課員	担当者

議事録要旨

会議名	第2回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日時	平成29年8月2日(水) 19:30~21:00
場所	102会議室
出席者	<p><部会員> 市民/笹原修之(部会長)、西田幸男、八木康史、福井工業大学/川島洋一(教授)、市職員/鳥山公裕、中辻雅浩、中島之裕、坂井真生、竹内優美</p> <p><事務局> 新幹線まちづくり課/永井課長、山本補佐、赤神 名古屋工業大学大学院/伊藤准教授 1-1 Architects/石川</p>
欠席者	<p><部会員> 市民/高木めぐみ、森嗣一郎、市職員/細川正樹</p>
内容	<p>部会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日(8/1) aキューブカフェ(パスタ屋)がオープンした。行政だけでなく民間においても、北陸新幹線開業に向けた準備や機運の高揚が図られてきたように感じる。本部会の取組が、官民民間の連携の礎になるとように引き続きよろしく願いたい。 <p>市民ワークショップ当日の詳細について</p> <p><u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(資料)市民ワークショップの進め方(案)及び(資料)ワークショップのチラシ・ポスターについて説明。ご意見を願いたい。 <p><u>部会長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ああ、あわら贅沢。」のロゴを入れてはどうか。 <p><u>部会員:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・aキューブの住所を入れてはどうか。 <p><u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ああ、あわら贅沢。」のロゴ、aキューブの住所ともに記載する。 <p><u>部会長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集人数は載せない方向でよいか。 <p><u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨機応変に対応したいため、昨年同様、載せないこととする。 <p>芦原温泉駅周辺まちづくりプランの素案について</p> <p><u>事務局:</u></p>

- ・(資料)まちづくりプラン(案)について概要を説明。
- ・第4回庁内検討会議では、このプランの前段階の案に対してご意見をいただいた。そこから、副市長や市関係課からの意見をもとに修正を重ねて本日のプランを提示している。
- ・「みんなで耕すあわらのまち」という市民プレゼンテーション時のキーワードをもとに、まち全体で有機的複合施設のようにしていくことを考えた。
また、あわらのお座敷文化を継承し、お座敷がもつおもてなしの精神性を備えた現代の新しいお座敷空間を計画していけるとよいと考えている。
賑わい空間と土地活用検討街区を結ぶひとつづきの有機的な大屋根を計画し、その中央や周囲には木々が植わり自然を感じるようにしている。
屋根の下(地上)には各機能を分散配置することで視線や光、風が抜けるようにし、利用者が隙間を縫うようにして全体を周遊する。
- ・各機能については、市関係課からの意見書をもとに計画に含めたもの、計画外としたものがある。例えば、託児所や高齢者施設は、不要といった声が多かったため計画に載せていないが、子どもや高齢者の方が憩えるスペースを確保することで、多世代にわたって集える場所ができると考えている。

部会員：

- 飲食店Fを体験・展示スペース、マルチメディアショップと入れ替えるほうがよい。飲食店はテーブルなどを外に出すことによって、aキューブ側にも賑わいが演出できるし、それが駅から見て手前側に見えてくるほうがよい。
- また、体験・展示スペース、マルチメディアショップは目的意識をもった人が利用するため、多少奥まった位置に配置しても問題ないのではないか。

事務局：

- ・本日、機能配置の件で市長・副市長協議を行ったが、今ほどと同様の意見があった。その他も含めて協議した概要を報告する。

(以下、副市長談)

- ・飲食店Eの西側に中規模の文化ホールをつくるのはどうか。2Fに大屋根から直接アクセス可能なホール(200~300人程度収容)があり、1Fに民間の飲食店、コンビニ等を収容する。ランドマークにもなると考えている。
- ・現在の文化会館では500~800名の収容が可能であるが、この規模のイベントは年1回程であり需要は少ない。また、温泉街の旅館のホールを借りることも可能であるため、200~300名規模で十分と考えている。
- ・100畳座敷は平日どのように活用するのか。
- ・100畳座敷を内部化するべき。
- ・100畳座敷と観光案内所を一体にするべき。
- ・屋根を西側へ伸ばすとともに、100畳座敷も西へずらし、ステージ広場を広くする。
- ・屋根形状は特徴的で良い。

部会員：

- ・屋根の高さはどの程度を想定しているのか。

伊藤准教授(名古屋工業大学):

- ・自由通路と同レベル程度でつながっていけるとよいと考えている。

部会員：

- ・通路が道路を横断するようにした場合に、屋根高さ 5m ほどでは金津祭の山車が通れない。

少なくとも 6m ほどは必要である。また、屋根の高さはコストや景観にも関係するため、今後の慎重な検討が必要である。

部会員：

- ・舞台状階段には屋根があるのか。
- ・舞台状階段の上で、イベントを行うのか。

事務局：

- ・屋根ありで想定している。
- ・「舞台状」と記したので語弊があったと思うが「客席」として捉えていただきたい。階段に腰をかけて、下のステージ広場を見下ろすイメージである。

部会員：

大屋根の影や柱が出てくることによって大屋根下の空間が暗くなりそうに思うが大丈夫か。

部会員：

この計画であれば明るい空間になると思う。

ところどころ屋根に吹き抜けを計画したり、吹き抜けから木々が屋根上にまで伸びてきているようにするとよいと思う。

また、神奈川工科大学の「KAIT 工房」は開放的なイメージとして参考になると思う。

伊藤准教授（名古屋工業大学）：

太い柱がたくさん建つことで景観が悪くなるといった意見があるが、細い柱を分散配置するなど、デザインでの解決方法はあると考えている。

部会員：

- ・土地活用検討街区と a キューブ敷地が切り離されていて、よそよそしいように思う。両敷地を一体感をもって計画できるとよい。

事務局：

- ・ひとつの方法として、土地活用検討街区、a キューブ敷地ともに、あわら市の魅力である「自然」を増やすことで一体感を獲得できるとよいと考えている。
- ・土地活用検討街区は、北陸新幹線開通後概ね 5 年以内での整備を目標としている。市の財源を考慮すると、国や県の補助金などを活用することが前提となる。

部会長：

- ・オフィスが図面の中に描かれていないが、どういった考えか。

事務局：

- ・ひとつは、図面に飲食店として示しているような小さなスペースをあらかじめオフィスとして用意しておく方法がある。

もうひとつは、本図面では土地活用検討街区に余白をたくさん設けているので、その部分に随時計画をして増やしていけるとよいと考えている。

伊藤准教授（名古屋工業大学）：

・このプランの良いところは、まちの成長に合わせて計画を更新していけるところだと考えている。

部会員：

・飲食店などの機能は1階にのみあって、屋上は通路のみのイメージか。

事務局：

・屋上にもいくつか出てくることを想定している。例えば、屋上の建物にも階段を設けて、そこから地上に降りることも可能とする。

部会長：

・小規模の飲食店について、湯けむり横丁程度の規模とあるが、そもそもコンセプトが異なる。どのようなイメージか教えてほしい。

事務局：

・飲食店に限定して考えてはいない。飲食分野以外のチャレンジショップやオフィスなど、小規模から開始して成熟した頃に広い場所へ移転することなどを考えている。

部会員：

・小規模飲食店は移動式か固定式か。

事務局：

・どちらも可能であるため、これから皆さんや運営者の意見を聞いて決めていけるとよい。

事務局：

・先週、土地活用検討街区の地権者に市の構想を伝え、それに対し協力の意向があるか確認したところ、概ね前向きな回答をいただいた。

部会長：

・福井信用金庫はどのような反応だったか。駅前に金融機関がなくなるのは市民から反対意見が出る可能性がある。

事務局：

・福井信用金庫からも、前向きに協力いただける旨の回答をいただいた。さらに、例えば、新しくできる施設の一角に店舗を出すなどといったことも前向きに検討してくださるとのことであった。

部会長：

・竹田川への動線を考慮すると、憩いの森の南にある階段を西へずらし、さらに向きも西向きにするのがいいのではないか。

・横断歩道も西側へ移動できないか。

事務局：

横断歩道の移動は難しい。T字路部分には交差点は必要で、さらにそこから最低50mは離して設ける必要がある。

部会員：

・外部階段を必要以上に増やさず、建物内の階段を利用することで動線が確保できるとよいと思う。

部会長：

・最近aキューブにパスタ屋がオープンしたように、キッズスペースやブックカフェなど、aキューブで運営可能なものがあればそちらで計画し、反対に、土地活用検討街区側に現

在のキューブ3・4のような多目的スペースをつくるなど、機能の入れ替えも検討に含めるとよいと思う。

事務局：

・ a キューブは、県補助金を活用し整備した。補助金の性質上、計画変更は困難である。

部会員：

・ 行政では、こういったイベントを開催するかなどのイメージはあるか。

事務局：

・ 例えば、2万枚のレコードを市に寄贈してくれた方がいるので、それらを活用した音楽のイベントを行ったり、街中に音楽を楽しめる仕掛けを施すことも考えられる。

部会員：

・ 福井市では週末などにコインパーキングにデッキを敷き、ビアガーデンにすることで成功を収めている。

・ また、ギャラリースペースも設けるとよいと思う。

部会長：

・ 飲食店 A の配置に違和感を覚える。あの三角形スペースをどのように使うか検討が必要である。

・ また、待合利用者がバスを視認できることが大切である。

部会員：

・ お土産、直売について、なぜこの位置にしているのか。

事務局：

・ 階段の降り口のすぐ近くに計画することで、駅に降り立った人やこれから駅を利用する人の目につきやすく、利用しやすいよう配慮した。

部会員：

・ 駅の中に売店等はあるのか。

事務局：

・ 今のところ特に無いと聞いている。

部会員：

・ お弁当などが買える小さな物販は通常あると思うが、もし無いのなら物販の位置検討は重要である。

部会員：

・ はじめに 100 畳座敷と観光案内所を一体にするとよいとあったが、つながっていることで気になってしまいリラックスして使えなくなると思う。

部会員：

・ 100 畳分の畳は常設、仮設どちらのイメージか。仮設であれば畳はどこへしまっておくのか。

事務局：

・ 常設、仮設はこれから議論を重ね決めていけるとよい。仮設の場合は倉庫などを別途計画する必要がある。

部会員：

・ 仮設とした場合に 100 枚分の畳を毎回運ぶのは無理があるので、規模を狭めたり、机・

椅子のゾーンをつくるのもよい。

部会員：

- ・協議かるたを駅前の電車の音がする場所で行うのは無理がある。

事務局：

- ・現在アンケート途中であるが、お座敷空間についてはほとんどの方が不要と考えているようである。

部会員：

- ・ステージは仮設か常設か。

部会員：

- ・比較的簡単に組み立てられるので、仮設でよいと思う。

部会長：

- ・土地活用検討街区の南西端の車寄せスペースであるが、仮にこの位置に文化ホールができて1階に店舗などが入る場合に、このすぐ近くに7~8台分の駐車場がなくては、市民は利用しないのではないか。

事務局：

- ・本日の意見をもとに伊藤先生と案を再検討し、9/4開催の第2回芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会にて方針を大方決定する。その上で、第3回芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会(12月開催予定)ではパブリックコメントで市民の意見を受けて、案を決定していく。

事務局：

- ・第2回芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会に向けて、本案の修正と、パース(1アングルほど)の作製を、伊藤准教授のチームにお願いしたい。

部会長：

- ・ワークショップでは、「パースのこの部分をどうしたいですか?」と具体的にポイントを絞って聞かないと、全体について意見が出てしまい、案がまとまらなくなると思うので注意が必要である。「あなたなら何をしますか?何ができますか?」と聞くのがよい。

【次回開催日時】

市民ワークショップ

- ・平成29年9月20日(水)18:30 集合(aキューブ)